平和への想い　次世代へ

広島平和記念式典小中学生派遣事業

昭和20年8月6日午前8時15分。人類至上最初の原子爆弾が投下されました。広島の街は一瞬にして破壊され、たくさんの人々の命が奪われました。目に見えない放射線は今もなお、多くの人々を苦しめています。

73年前と同じように、真夏の太陽が照りつけ、気温36度を超える猛暑の広島で、平和記念式典に参列した市内全小中学校の代表者33人の児童・生徒たちは、平和の祈りをささげるとともに、戦争の恐ろしさや平和の尊さを自身の肌で感じ、心に刻みました。

式典への参列を通じて、磐田市の未来を担う子どもたちが、どのようなことを学び、感じたのかを紹介します。

平和の灯が燃え続ける限り、真の平和が訪れていないことを知り、世界の人と心の架け橋を築き、世界平和を実現し、平和の灯を消したいです。

加藤 大智（豊浜小）

争いを起こそうとしている人に、「争いをしても良いことはない。悲しいことが多いのでやめてほしい」と伝えたいです。

髙塚 琉楓（岩田小）

戦争を知ることで、自分が生きていることの素晴らしさや生きたいという気持ちを知ることができました。

加茂川 凛（田原小）

平和とは一人一人が助け合いながら生きていくこと。磐田市も助け合いながらがんばることができる市にしたいです。

大澤 拓真（豊田東小）

平和を願うなら、核兵器をなくすべきだと核兵器保有国に伝えたいです。

小林 美星（豊岡中）

原爆の恐ろしさや命の大切さ、平和の尊さを伝えることが今後の自分にできることだと思います。

深田 悠雅（向陽中）

戦争を経験していないから関係ないと思わずに、平和な世界を目指すには自分たちがその役割を果たさなくてはいけないと感じました。

橘 啓乃（豊田南中）

互いの権利や個性を認め合い、協力して問題解決できる関係が世界全体に広がったときに、平和が訪れたと感じる事ができると思います。

上田 誠人（竜洋中）

一面焼け野原だった広島をここまで発展させた人々の心と力の強さを感じました。

内山 翔貴（神明中）

これから平和な未来をつくっていくために、私たちに何ができるかを考えていきたいです。

阿部 彩希（城山中）

平和への想い

▲8月15日磐田市平和祈念式の様子

加藤　真智（福田中）さんの
スピーチの一部を紹介します。

平和記念式典に参加したことで、被爆した方々、その親族、知り合いの人々は、私以上に深く長く、悲しみ、悔やんでいるのだということを感じました。けれども、私はその厳かな式典の中で、皆が過去を嘆き悔やむばかりでなく、過去を振り返り、どのように未来へとつなげていくか、この歴史をどのように次世代へ伝えていくかを前向きに考えるという力強さも感じました。そして私に、この訪問で学んだこと、考えたことをたくさんの人たちに伝え、歴史を風化させないようにしたいという思いが芽生えました。

訪問は深い衝撃を受ける学びの連続でした。平和を願うからこそ、過去の歴史と向き合い、真実を伝えようとする人々の思いに応え、私たちにできる平和への行動を積み重ねていきたいです。そのためにも何事も自ら深く学ぶ姿勢、身近にいる人を大切にする姿勢、そして社会を広く見渡す目を今後の生活で養っていきたいと思います。

想いを伝える

式典への参列を通じて、33人の子どもたちが得た経験は、何物にも変えられません。訪問を終えた彼らは、家庭や学校に戻り、それぞれ感じた戦争、平和への想いを伝えます。

彼らが自らの言葉で伝え、行動することは、平和な未来への一筋の光です。それぞれの光が重なり、大きな虹ができる時、平和な世界が実現するのではないでしょうか。

①広島平和記念式典で黙とうし、平和への祈りをささげました
②安田女子高校で※被爆桜に触れ、生命の力強さを感じました
③各学校で心を込めて折った千羽鶴を平和記念公園へ奉納しました
④平和記念資料館で被爆し焼け焦げた三輪車など貴重な資料を見学しました
⑤SBSラジオ「上田朋子のGoingMyWest」に小中学生の代表が出演し、広島訪問で感じた「戦争の残酷さ、平和の大切さ」を伝えました

※被爆桜…広島市の安田女子高校で生き続ける、原爆の被爆樹木に認定された貴重な桜。被爆地では75年間は草木も生えないと言われた中、翌年の春に花を満開に咲かせた。同校生徒会が接ぎ木で増やし、後世に伝えている